



塾生さん、いま何してる？

### 『経験を積み重ねていくこと』



▼自身初となるデザインからの製作実習を続ける千龍さんは、マツ材での試作から本番用のニレ材に材料をうつし、現在は仕上げ削りを行っています。

ニレ材は千龍さんにとって今回初めて使用する樹種になります。針葉樹のマツに比べると堅い広葉樹のニレ。ニレと同じ広葉樹もこれまで削ってきたましたが、今回は逆目だとまらず、仕上げるまでになかなか苦戦しているようです。

千龍「今のところ午前中に一枚。午後で一枚を仕上げていくようなペースです。」

作業ペースに不安の声もありませんが、技術や知識は確実に。「もう少ししたら、塗装をしてみます。」と、はじめてのオリジナル作品が出来上がるのももうすぐです。



### 「視点をかえて気付くこと」

色鮮やかな季節から白一色の季節へ。季節便り 11月号では、葉が空を覆いつくすほどだった景色が季節の移り変わりによって、その見た目を変えていくこと、冬支度のための動植物それぞれの準備があることを知りました。同じ場所でも季節の変化が景色に違いを生んだり、視点の切り取り方を変えることで新たな発見があったりします。

自然の素材である木材も、同じように見えてそれぞれに違いがあったり、切り取る部分を変えることで様々な表情を見せてくれます。kinocaの多角小鉢は、角の取り方による表情の違いや、木目の切り取り方によって、器の雰囲気が変わってきます。木という素材の面白さを知るとともに、その背景には、木材を無駄なく有効に使う作り手の工夫と努力があることも知っておいてほしいポイントです。

kinoca「多角小鉢」



### 「おはしのおはなし - 祝い箸 -」

3.1  
コ  
レ  
ク  
シ  
ョ  
ン

お正月にお箸を新しくする習慣があることを、皆さんはご存知でしょうか。この習慣は、新しい年の無病息災を祈願する意味合いがあるとして、古くから行われています。普段何気なく使用しているお箸ですが、その形状や用途には様々な意味が含まれています。今回はハレの日の席で使用される「祝い箸」についてまとめてみます。

祝い箸は両端が細く、真ん中が膨らんだ形をしています。これは片方は人が食べるために使い、もう片方を神様が食べるために使うことを意味していて、このことから「両口箸」と呼ばれます。また、お祝いの席で使用されるお箸が万が一にも折れてしまわないよう、材料には柳が使用されます。丈夫でしなやかな柳の木が縁起をかついで使用されるのです。



お箸は日本人の生活に密接に関係するものだからこそ、様々な用途があり、ルールがあります。この他の「おはしのおはなし」は、また今度。

### 今月の一品



工房名：木工房 ICHIGO  
 商品名：プチボウル  
 サイズ：径 105mm  
           高さ 55mm  
 価 格：2,200 円（エゾマツ / 税抜き）  
           2,400 円（広葉樹 / 税抜き）  
 樹 種：エゾマツ、カバなど

木の器ってどうなんだろう？と思っている方。プチボウルにサラダでも盛って食卓に加えてみてください。たったひとつ、小さな木の器が加わるだけで今までの食卓と雰囲気が変わることにご気づかれるでしょう。手入れも思いのほか簡単。

「まずは試してみたい」という方にお勧めいたします。気に入ったら別のモデルもぜひ。ショップでは用途に合わせて、樹種、サイズともいろいろ取り揃えています。お気軽にスタッフまでご相談ください。



ショップスタッフ 辻

— 編集後記 —  
 令和二年は新型コロナウイルスの感染拡大により、これまでとは異なる対応が多く求められました。そんな中でも、こういう時だからこそと、新しい挑戦も出来たように思います。

鹿の子沢季節便りとの「森のリレー」は、今月号で終了となります。ひとつのこを色んな方面から見ると、新たな発見に繋がっていきます。色んな興味の始まりになっただけ嬉しければ嬉しい限りです。



「触覚美」は日本の美